

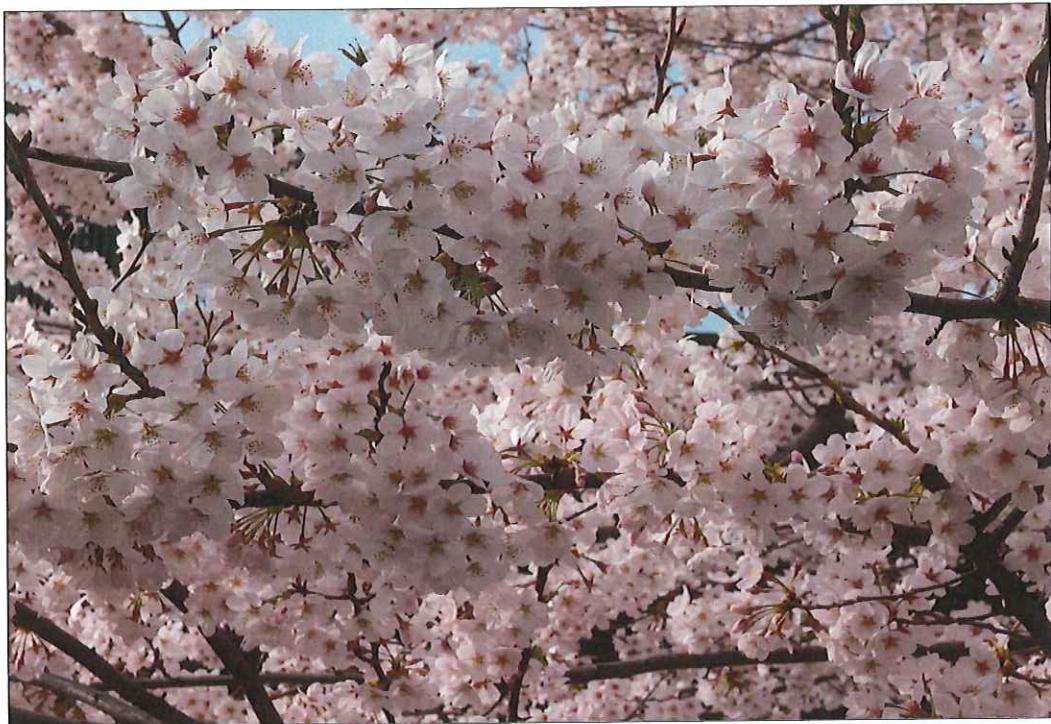
いきいきまーち

春号

NO.77

～みんなが生き生きと暮らせる街に♪～

[特集] 創立百周年にむけて
「感染症対策下での施設生活
～制約から生まれた新しいコト～」



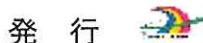
ホーム庭の桜(2022年3月)

主な記事

- 連載 ●地域貢献 ③
●「はなプロジェクト」～連携機関として参加しています～
●栄養士のパレット 第43回 「さわら」

- ◎2023年度事業における法人の方針
◎第三者評価の受審

発行



社会福祉法人 東京老人ホーム

「共に希望、喜び、人間としての誇りを分かち合つて」

理事長 德野 昌博

私たちの東京老人ホームには、「ミッショナリメント」があります。その冒頭

で、「私たちは、キリスト教精神によって、ご利用者、ご家族、地域の方々と共に希望、喜び、人間としての誇りを分かち合つて生きるコミュニティの実現を目指します」と謳っています。

「キリスト教精神」とは、「愛の心」です。

愛は、自分が自分としてあるためには相手が必要だということです。逆も真です。愛は「崇高な行為」などと言われたりしますが、そんなに構えたりせずに、相手を相手たらしめるためには、自分が必然、必要とされていることです。共に生きるために、

の喜ばしい、安定した関係、それが愛です。

相手の身になって、相手のためにことを為すことが愛だと思います。相手の身になつたつもりで為したことか、相手の重荷になつている場合も決して少くないわけです。人間関係は難しいものです。

愛というと、何かをしてあげること、能動的なこととして捉えがちですが、自分を控えることが愛という場合もあるでしょう。それが意外と大切なではないでしょうか。自分を控えること、おせつかいをやかないことです。でも、それは「無関心」とは違います。相手の姿に、自分を見ると言いますか、自分と同じ弱さを見て、恐縮するところの節度であり、慎み

です。この決して「能動的」ではない、「動」に対しても「静」とでも言いましょうか、

この「静」の節度と慎みが、人間関係における潤滑油となって、人間関係を円滑にし、豊かなものにするのではないでしようか。愛はユーモアであります。

それぞれが節度と慎みの愛の心をもつて、希望、喜び、誇りをもつて、共に生きていくことを願っています。

希望、喜び、誇り、それは人間としての尊厳です。神に似せて造られた人間の尊厳、それはすべての人に等しく与えられており、そして、だれも犯してはならないもので。この尊厳を一人ひとりが大切にし、そして、互いに尊重しあって、私たちは生きていきます。

創立百年を迎える私たちの東京老人ホームは、この天地の造り主、歴史の支配者である全能の神様を信じて歩んできました。これからも、このお方のみ顔の前で生きるホームとして歩んでいきます。

皆さま、お一人おひとりの上に、主なる神様の祝福が豊かにありますよう、お祈り申し上げます。

私たちの「ミッショナリメント」は、神様への祈りで結ばれています。

「主よ、私たちに愛の心をまし加え、歩むべき道筋をしめしてください」と。神様への祈りをもつて、私たちは共に生きていきます。神様が助けてくださり、守つてくださり、支えてくださいます。



二〇二三年度事業における法人の方針

二〇二三年度事業計画より

(一) 事業経営の理念

東京老人ホームは、今年十二月十三日に、創立百周年の記念日を迎えます。これまでの百年の歴史に深く感慨を覚え、主なる神様に感謝するものであります。百年の節目にあつて、「来し方、行く末」を検証、展望しつの本年度の事業計画策定となります。

私たちは、時が良くとも、悪くとも、原点への立ち返り、出自身的確認をしてきました。当法人の原点は、関東大震災の被災者の支援活動です。創立者たちは、大震災で被災した人々に、その中でも、「最も弱い人々」に支援の手を差し出したのです。「最も弱い人々」。それは、身寄りのない高齢者と、親を失った子どもたちです。東京老人ホームは高齢者を、姉妹施設のベタニヤホームは子どもとそのお母さんたちをと、それぞれ役割を分担して、その支援に乗り出しました。

その活動が私たちの「初めての一歩」、原点です。この支援の活動はやがて組織を伴う事業になります。

事業の創設に関わった人々は、「はつきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」(『マタイによる福音書』二五章四〇節)

とのイエス・キリストの言葉を聞く、その言葉に押し出されるようにして、この事業に着手しました。それ以来、東京老人ホームは、このキリストの言葉と、そこに込められた愛の心を大切にしてきました。

私たちは、ご利用者一人ひとりが人間としての尊厳を保ち、喜びをもって生きることが出来ます。このキリストの愛の心に共感し、共有しつつ、共に働く仲間を、私たちは求めています。

(二) 事業経営の現状

二〇二〇年から今に至るまで、新型コロナウイルスとその変異株による感染症まん延状況は、消長はあっても変わらずに続いています。まん延の初期に、既存の感染症対策委員会は、いち早く防止対策を策定しましたが、三年経った今、見直しをし、現状にふさわしい対応をしていきます。

利用者様には今なお不自由を我慢していただいていますし、職員は細心の注意を払い、懸命の努力をしています。出口は依然見えませんが、「深い地の底も御手のうちにあり」と聖書(『詩編』九五・四)が語るように、この厳しい状況を神様はご存じであり、それだけでなく、支配しておられることを信じて、希望と勇気をもって取り組んでいきます。

3

(三) 事業経営の課題

最優先すべき課題は、常に変わらず、「利用者の方々が安心して、心豊かに毎日を過ごすことができる環境とサービスの提供」です。この実現、充実のためには、「コロナ禍」の状況にあっても、不断の努力を続けていきます。

厳しい現状にあっても、地域の方々の、平素ども感謝いたします。

創立百年を感じつつ、広報委員会は、創立百周年記念号として、季刊誌『いきいきまーち』



の夏、秋、冬の各号で特集を組みます。また、記念誌については、九〇周年以降の振り返りに留まらず、これから新しいホームに向けての展望に重点を置いて掲載するよう検討中です。また、創立記念礼拝及び式典をリモートでの実施を計画します。

[特集] 創立100周年にむけて

感染症対策下での施設生活～制約から生まれた新しいコト～

特別養護老人ホームめぐみ園 ケアワーカーリーダー 渡部 正大

変化した日常

二〇二〇年三月から新型コロナウイルスの感染・蔓延の防止のため、特別養護老人ホームめぐみ園での生活も変化を強いられました。

ウイルスの影響を受けやすい高齢者の健康を守るために、密を防ぎ、体調管理に重きを置いた対策をとりました。
以下にあるのは、コロナ禍で行った主な感染対策です。

(一) 食席のテーブルに透明のアクリル板を設置する
利用者が集まって過ごされる食堂には、食席のテーブルに飛沫予防のための透明のアクリル板を設置する。

生活の潤い ～楽しさと癒しの大切さ～

(二) 面会を原則禁止する
今まで、居室や食堂でできていた面会は原則禁止となり、一部、看取り期の方などの面会しか行えなくなつた。

(三) 感染者発生時の対応
利用者や職員に感染が疑われた段階で、蔓延を防ぐために居室で食事をとつていただきなど特別な感染対策を行つた。

普段行つていた外出がきなかつたり、多くの人が集まり、外部の方の協力を得て行つていた行事や、クラブ活動が中止になつてしまつた事で日常とは違う霧囲気や地域の方やボランティアとの交流などの利用者の楽しみが少なくなつてしまつました。

人の生活の質を考えると、衣食住が満たされることであります優先されることであることは間違ひありません。しかし、あらゆる人との交流、趣味の時間、外の風にあたる事、自然や動植物を見直し、少しでも利用者の生活に前述したような「潤い」を感じていただく新しいイベントができるないか、めぐみ園の中で検討しました。その中で実践した取り組みを紹介します。

物とふれあうこと、季節を感じること、様々な要素が人の生活には欠かせないと思ひます。

コロナ禍での新たな試み



(一)わんわん村



わんわん村

外出や人の交流が少なくなった生活の中で、何か利用者の楽しみや癒しに繋がることは出来ないかと新たに企画したものが、「わんわん村」です。ホームにセラピー犬を招いて、ふれあってもらいうイベントです。この企画名は利用者にも職員にも愛着が湧くような名前を若手職員が考えました。当日は利用者の普段見られないような笑顔や、はしゃいでいる様子が見ることが出来ました。普段の生活で味わうことができない新しい楽しい買物会

(二)メグハウス(衣類の買物会)

コロナ禍になる前は年に二回、一日限定で家族も付き添って衣類の買い物のイベントを行っていましたが、コロナ禍で二年間中止していました。

蜜を防いだ新しい買物のイベントができなか検討

した結果、外出が出来ない中で衣類を選んでコーディネートしたり、欲しいもの選んだりする時間を大切に、「買い物を楽しむ」ことをコンセプトとした新しい買い物イベント「メグハウス」を企画しました。

イベント期間は各階に五日間衣類を展示して、その間に利用者が商品を試着したり、手に取つたり、職員と相談したりするなど、

い非日常を提供できたのではないかと思います。好評だった為、初回の二〇二二年六月に続き二回目を十一个月に開催しました。



メグハウス

これから生まれる新しいことの大切さ

園する事が難しかったご家族との面会がかなうようになつたことは新しい発見でした。中には、以前住んでいた家や、ご家族が飼っているペットを見る事ができた方もあります。対面での面会が再開されても新しい形の面会として残していく考えです。

これからのお展望

これららの試みは、コロナ禍での制約や環境の変化があったからこそ、考えて、工夫をした結果、新しく生まれたものであるとあらためて気づかれます。

これからも“制約があつた事で、コロナ禍で会えなくなつてしまつた家族や友人と顔を見る事ができる貴重な機会となりました。これまで面会に来れなかつた遠方には、住まわれているご家族や、高齢などの理由から



第三者評価の受審

特別養護老人ホームめぐみ園

当法人では、外部の第三者の評価を通してより良いサービス提供の実現を目指し、東京都福祉サービス評価推進機構が承認した評価機関の評価を受けました。

今回の結果を通して気付かされた課題を検討しつつ、より良いサービス提供に取り組みます。

各事業所の評価結果の詳細をご覧になりたい方は、事業所に備え付けの報告書もしくは法人ホームページをご覧ください。① ⇒ 特によいと思う点 ② ⇒ さらなる改善が望まれる点

①	②	①
<p>短期入所生活介護めぐみ園</p> <ul style="list-style-type: none"> 特養以外の施設の進出や人手不足などにより、今後利用者の確保が難しくなる可能性があることを踏まえ、施設独自の取り組みを行っている。 生活相談員を3人体制にすることで、家族などとの連絡体制や入所希望者などへの対応が円滑に行われている。 利用者個人の生活を尊重しながらもクラブ活動や行事への参加が促されている。 	<p>新型コロナ感染拡大後も予防を徹底しながら、地域貢献の事業に取り組んでいるが、法人全体として新たな創意溢れる事業展開が期待される。</p> <ul style="list-style-type: none"> 入所者の心身状況に合った適切な福祉用具の選定について、職員が知識を深め事故を防ぎ安全に生活で看取りケアへの職員の意識やスキルの向上が図られることが期待される。 入所者の心身状況に合った適切な福祉用具の選定について、職員が知識を深め事故を防ぎ安全に生活できる体制を整える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 特養以外の施設の進出や人手不足などにより、今後利用者の確保が難しくなる可能性があることを踏まえ、施設独自の取り組みを行っている。 生活相談員を3人体制にすることで、家族などとの連絡体制や入所希望者などへの対応が円滑に行われている。 看取りケアのリーフレットの作成により、利用者と家族、職員が共通の認識を持つようになつた。

②	①	②
<p>養護老人ホーム東京老人ホーム</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部講師を招聘し、ソーシャルワークの研修を行い、多様化する利用者のニーズに対応している。 内科、精神科、眼科、皮膚科、訪問歯科など多科の医師が往診する仕組みがあり、健康維持についてトータルケアが出来る環境が強みである。 新型コロナ感染防止のため、陽性者が出てることを想定した初動シミュレーションを行いゾーニングマップを作成し初動手順をマニュアル化した。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナ感染拡大防止のために増加した業務内容を見直すと同時に「新型コロナ」を目指す新たな取り組みが期待される。 服薬は個人管理が多いが、落薬や服薬忘れ等が散見され事故検討委員会で改善策を検討しているものの服薬支援への更なる改善に期待したい。 様々なニーズに応えられるよう、利用者の受入れの基準などを見直していく必要が求められている。 	<ul style="list-style-type: none"> 入所者の心身状況に合った適切な福祉用具の選定について、職員が知識を深め事故を防ぎ安全に生活できる体制を整える必要がある。 入所者の心身状況に合った適切な福祉用具の選定について、職員が知識を深め事故を防ぎ安全に生活できる体制を整える必要がある。

①

- ・「愛の心の共有」を原点とし利用者のみならず職員に対しても多岐にわたるきめ細かな施策を講じており、東京都の各種の優良認定を受けている。
- ・居室担当職員の裁量を広げることで、利用者への支援の質と職員のスキル向上を図った。
- ・自粛生活が長期化する中でモバイル環境を駆使し、出来ることに着眼した多彩な介護予防活動企画よい取り組みとして評価したい。

②

- ・ウイズコロナからアフターコロナへの変化に備えて、経営層は円滑な業務推進のためさらに業務の総点検を行い方向性を定めることが望まれる。
- ・コロナ感染の対応などによる家族や外部サービス事業者との連携体制に工夫が求められている。
- ・弁当による食事提供が長期にわたり、利用者からの不満も多く、感染対策の工夫により一日も早い配膳による食堂での食事の再開が待たれる。

- ①特によいと思う点
②さらなる改善が望まれる点



ぜんざいを楽しむ会

新たな年を迎えた一月十二日、ぜんざいを楽しむ会を開催しました。

感染対策をしながら四グループに分かれ、食堂に集まり楽しんで頂きました。

新年らしく、また和菓子のお店に来た様な雰囲気を作りたく、赤いフェルトマットに利用者が松の活け花を飾り、各テーブルにはランチョンマットを敷き、雰囲気を演出しました。やはり甘いものは別腹。三杯おかわりされる方もおりゆっくり楽しまれていきました。

コロナ禍でも楽しく

ニユーライヤーコンサート

一月二〇日（金）近隣の田無工業高校ブルースバンド部のご厚意で、「ニユーライヤーコンサート」をライブ配信（特養・養護・軽費三施設）で開催していただきました。

高校生の元気な姿、素敵な演奏を観ることが出来て、利用者の皆様もとても喜んでいました。

近い将来、利用者の前で生演奏してくれることを楽しみにしています。
今後も世代を超えた地域のつながりが楽しみです。



地域貢献

(3)

「花プロジェクト」

「連携機関として参画しています」

東京老人ホームは、保谷第二小学校の市民科プログラムの一つである「花プロジェクト」に連携機関として、参画しています。

花プロジェクトは、学校関係者や地域のサポート者が運営

し、近隣の学校や施設などが連携機関となつて昨年度から開始されています。

花プロジェクトのねらいの一つに「地域の花ネットワークに参加し、住環境の美化に貢献する」があり、児童が、ヒマワリ・パンジー・チューリップを育て、その花を、それぞれの花大使（児童）が、近隣の学校や施設、住民などに贈呈します。

保谷第二小学校



チューリップの球根を箱に入れてプレゼント



花プロジェクトを通しての実際の交流の様子

東京老人ホームで生活している方々や職員も、花を通して保谷第二小学校の児童や職員とたくさんの交流を図っています。

七月に頂いたヒマワリは太陽とおいしい水と児童のみなさんの愛情をいっぱい浴び、とてもきれいに黄色の花びらを大きく広げて、力強く真っすぐ育っていました。その姿は毎

月登校中に大きな声で挨拶をしてくれる児童のみなさんを表しているようでした。

十一月には東京老人ホームで生活している方、職員をから小学校に、チューリップの球根を百株プレゼントしました。その際、六年生全員がホームで生活している方、職員を迎えてくれました。感謝の言葉を児童のみなさんから頂き、盛大な贈呈式となりました。

十二月には種から育てたパンジーを小学校から頂きました。一つひとつが丁寧にポットに植えてあり、上品にかわいく咲いていました。その姿から毎日丁寧にきめ細やかに育てられたのだなど感じました。

現在は新型コロナウイルスの影響により同じ空間で育てています。



パンジーを頂きました

コロナが終息を迎えた時には、花壇で一緒に種をまき、愛情を注ぎ育て、大先輩としての知識や技術を若い世代に教え、伝える。また、新しい世の笑顔と元気をもらひながら、交流を通じて地域の輪を広げていく。そのやりがいと充実感を施設で生活する皆さんのが生きる力につなげていきたい

る作業ができませんが、私たちは花プロジェクトを通して、児童のみなさんから素敵な花と笑顔と元気をたくさんいただけだと実感しています。

花プロジェクトを通じてこの地域が花と地域住民の笑顔で満たされ、明るく潤いのある街になることを目標にこれからも携わっていきたいと思います。



第四三回 栄養士のパレット

いろいろな食の話題を紹介するコーナー

さわら

さわらは漢字で書くと「鰯」と書きます。漢字にもある通り、さわらは春を告げる魚です。

さわらの身はくせが少なく、淡白な味わいのため、様々な調理法を通して食卓に登場する、万能な魚です。

さわらには、カルシウムの吸収を促進してくれるビタミンDが含まれています。カルシウムの吸収が促進されることで、丈夫な骨を作り出したり、筋肉の発達にも作用します。他にも、免疫力を高める働きや、血液や筋肉中のカルシウム濃度を調節してくれる重要な役割を担っています。

また、ミネラルの一つであるカリウムを含んでいます。「100g中490mg」と、生の魚類の中では、三位になるほどの含有量です。カリウムには利尿作用があるため、体内の過剰なナトリウムを排出。肝臓でナトリウムが再吸収されるのを防ぎ、血压が上がるのを抑えるため高血圧の予防ができます。



さらに、さわらの脂質には不飽和脂肪酸の一一種であるDHAやEPAを含みます。DHAやEPAは血管の柔軟性を保ち、血液をサラサラにして流れを良くする効果で知られる栄養です。その他、中性脂肪の低下や血栓を防ぎ、脂質異常症や高血圧、動脈硬化の予防にも効果があります。

その他にも、良質なタンパク質が含まれています。タンパク質は、肌や爪、髪、筋肉、臓器といった人の身体を作るのに必要な不可欠な栄養です。また、ホルモンや免疫物質をつくり、体中へ運ぶ働きもあります。日々使われる栄養素なので積極的に摂取することがおすすめです。

『鰯の南部焼』

- ①鰯の切り身を調味料とごまの半量に20分ほど漬け込みます。
- ②取り出した鰯を並べ、残りのゴマを上から振りかけます。
- ③グリル中火で10~15分焼いて完成。（焦げやすいので注意）。

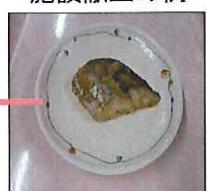
「南部焼」は、ごまを漬け込んだり振りかけたりする料理です。ごまの生産で有名な南部地方（青森県、岩手県）の料理です。鶏肉や他の魚にも合いますのでお試しください。

材料〔三人分〕

醤油	二切れ
みりん	大さじ一
酒	白すりごま
小さじ一	小さじ一
黒すりごま	小さじ一



施設献立の例



創 感染症対策

新型コロナウイルスによる感染症は、五月八日からその分類が二類相当から五類に変更になる見込みですが、さまざまな基礎疾患を抱えている高齢者の生活の場では、治療薬などがもつと身近になるまで、もうしばらくは基本的な感染症対策が必要であると考えていま

す。地域の皆さまとの交流などもマスクや手洗い、三密の回避を考えての楽しみや生活となるのです。秋に予定している「いきいきさんデー」もリモートだけでなく交流が出来るよう検討中です。入居の皆さんなどについ踏まえて順次、各施設で再開していく予定です。



ぽぽたんカフェ 開催を中止いたします

例年5月の土曜午後、地域の方々との交流のためホームの中庭を開放し、ティータイムを楽しんでいただく「ぽぽたんカフェ」を行ってきましたが、新型コロナウイルスによる感染症対策のため、開催を中止することにいたしました。



来年は新たな形で開催することを検討しています。

楽しみにお待ちください。

東京老人ホームに関するご案内は、法人ホームページをご覧ください。

<https://www.tokyo-rojin-home.or.jp/>

又は 検索サイトで東京老人ホームを検索

又は、右のQRコードから



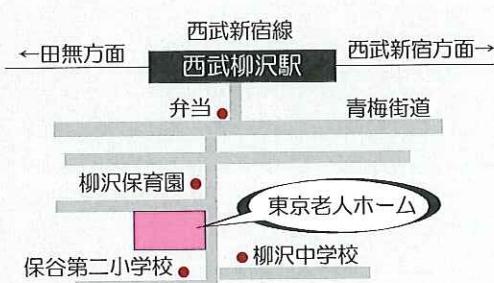
編集後記

新年度を迎えました。

三年間さまざまな感染症対策を続けてきましたが、ようやく対面での活動を具体的に検討できるようになります。

特集では、感染症対策下での特養の生活について振り返っています。

一九二三年の関東大震災直後に、生活の場を失った高齢者の施設としてスタートした東京老人ホームは、創立百周年を迎えます。この季刊誌も、次号から記念号としてお届けする予定です。



お問い合わせ 社会福祉法人 東京老人ホーム
住所 〒202-0022 東京都西東京市柳沢4-1-3
電話番号 042-461-2230
FAX 042-461-2280
ホームページ <http://www.tokyo-rojin-home.or.jp/>
発行 2023年4月30日 第77号（年4回発行）
☆ご意見ご要望をお寄せ下さい！